

## 市立太田高等学校アメリカ研修 1日目 (3/4)

暖かな日差しの中、ついにアメリカ研修出発の日を迎えました。生徒たちは集合時間より早めに集まりはじめ、保護者の方としばしの別れを惜しんだり、友達と持ち物の確認をするなど、緊張と興奮が半々といった様子でした。出発式では多くの保護者の方、先生方が駆けつけて下さり、生徒たちも校長先生からかけて頂いた言葉をしっかりと受け止めていました。現地企業をアメリカで訪問することの意義、そして根岸教授の講演などこの研修だからこそ経験できる、稀有な内容のプログラムであることを改めて感じ思いを新たにしたいのではないのでしょうか。生徒代表からは、この研修に送り出してくれた家族への思いと共に、事前学習などの準備に尽力して下さった先生方への感謝も聞かれ、必ず多くのことを吸収し笑顔で帰ってくるとの力強い決意の言葉が印象的でした。

学校から羽田空港までは予定より一時間も早く到着し、その後のセキュリティや出国審査なども順調に進みました。海外に初めて行くと言うだけでなく、飛行機に初めて乗ると言う生徒もおり、初めての経験がすでに始まっています。多くの生徒にとって最初のハードルとなるのは、乗り継ぎ地であるミネアポリス空港での入国審査です。最初に通されるキオスクと言う機械では日本語で質問が出てきますが、その後の審査は当然英語でのやり取りです。何を聞かれるのかと不安そうにしながら順番を待ちました。実際の質問は、想定通りの「期間は?」「目的は?」と言う内容がほとんどでしたが、少しでも予想と違う聞き方をされるだけで、一気に混乱してしまう生徒も。審査官によっては全く質問が無く終わるパターンもあり、早速アメリカの大雑把さを体感しました。

乗り継ぎゲートまでは、自分たちで電光掲示板を見て便名を確認し、案内表示に従って進んでもらいました。一人が迷うと他の生徒が助けると言う場面は、空港内でよく見られた光景です。ボストン到着まで非常にスムーズに進んだのは、誰か任せにするのではなく1つのグループとして行動するという意識が高かったからだと思います。

ボストン空港ではFLSのスタッフが待っており、これからホストファミリー宅へ向かうための説明がありました。16名で行動していたところをいきなり2名になる心細さが一気に押し寄せます。ホストファミリーとの初対面が近づく緊張と、寝不足や疲れが相まって、バンの中では口数が少なくなりましたが、ファミリーが迎えてくれると恥ずかしそうな顔で自己紹介をし、家の中に入って行きました。明日は自分たちだけでバスや地下鉄を使いFLSまで登校するという大きな挑戦から始まります。全員が無事に元気な顔を見せてくれることを楽しみにしています。



出発式 校長先生からの激励



出発式 生徒代表挨拶



羽田空港より出発



ミネアポリス到着時